

しょうがいべつ ひなんじょ おも はいりょじこう 障害別の避難所での主な配慮事項

ちょうふくしょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりょ ひつよう
(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

しかくしょうがい かた 【視覚障害のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

ひかり かん ぜんもう めがねなど しょう もじ しきべつ じゃくし み
(光を感じない)全盲、眼鏡等の使用で文字が識別できる弱視、見える
はんい せま し やきょうさく とくてい いる しきべつ こんなん しきかくいじょう
範囲が狭くなる視野狭窄、特定の色の識別が困難な色覚異常などが
もじ え しかく じょうほうしゅとく こんなん
あり、文字や絵などの視覚による情報取得が困難。

はいりょ 配慮すること

しょうがいていど ぜんもう じゃくしなど じょうほうしゅとくほうほう てんじ おんせい かくだいもじ
障害程度(全盲、弱視等)や情報取得方法(点字、音声、拡大文字
など かくにん ひつよう しえん はあく
等)を確認して必要な支援を把握する。

じょうほうでんたつ こうないほうそう など おんせいじょうほう く かえ なが
情報伝達は、構内放送・マイク等で音声情報を繰り返し流したり、
かくだいもじ けいじ てんじなど かつよう
拡大文字による掲示、点字等を活用する。

しゅうい じょうきょう し むずか しえんしゃ ひなんじょない
周囲の状況を知ることが難しいため、支援者はまず避難所内を
あんない
案内する。

とく はいきゅう ばしょ あんない かくにん ひつよう
特にトイレや配給の場所を案内して確認してもらう必要がある。

たんどくこうどう こんなん ばあい しえんしゃ ひじ うえ ほうこう
単独行動が困難な場合は、支援者の肘の上をつかんでもらい、歩行
そくど き いっしょ ある ゆうどう
速度に気をつけて一緒に歩いて誘導する。

うし お て ひ ば かた はくじょう など こうい
後ろから押したり、手を引っ張る、肩や白杖をつかむ等の行為は
しない。

ひつよう おう など ひなんじょ はけん えんかつ いしそつう
必要に応じてガイドヘルパー等を避難所に派遣し、円滑に意思疎通が
とれるようにする。

しょうがいべつ ひなんじょ おも はいりよじこう 障害別の避難所での主な配慮事項

ちょうふくしょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりよ ひつよう
(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

ちょうかくしょうがい かた 【聴覚障害のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

かんぜん き ほちょうきそうよう おと かん おお こえ
完全に聞こえない、補聴器装用によりわずかに音を感じる、大きな声で
ちか かいわ き と さまざま おんせい じょうほうしゅとく
の近くの会話なら聞き取れるなど様々で、音声による情報取得が
こんなん
困難。

ちょうりよくそんしつ じき ていど ほか しょうがい ちょうふくなど しゅ
聴力損失の時期や程度、他の障害との重複等により、主たるコ
ミュニケーション手段にかなりの違いがある。

はいりよ 配慮すること

き じょうたい じょうほうしゅとくほうほう しゅわ どくわ あいて くち うご ないよう
聞こえの状態や情報取得方法{手話、読話(相手の口の動きで内容
りかい ひつだん ほちょうきなど かくにん ひつよう しえん はあく
を理解する)、筆談、補聴器等}を確認して必要な支援を把握する。

じょうほうでんたつ けいじばん は がみなど かつよう もじ おこな
情報伝達は、掲示板、貼り紙等を活用し、文字により行う。

ひつだん ばあい みじか ことば か むずか い まわ さ
筆談の場合、短い言葉で書く。難しい言い回しは避ける。

ていでんなど くら とき けいたいでんわ ゆうこう
停電等で暗い時は携帯電話のメールも有効。

どくわ かのう ひと たい しょうめん はつげん
読話が可能な人に対しては、正面からはっきり、ゆっくり発言する
こと。

ひつよう おう しゅわつうやくしゃ ようせい えんかつ いしそつう
必要に応じて手話通訳者を要請し、円滑に意思疎通がとれるように
する。

障害別の避難所での主な配慮事項

(しょうがい ちょうふくしょうがい しょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりよ ひつよう
重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

【したいふじゆう かた 肢体不自由のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

し し じょうし かし たいかん ふつきん はいきん きょうきん あし きんにく ふく どうたい
四肢(上肢・下肢) 体幹(腹筋、背筋、胸筋、足の筋肉を含む胴体
ぶぶん しょうがい ほこう ひっき にちじょうせいかつどうさ こんなん
の部分)に障害があり、歩行や筆記などの日常生活動作に困難が
ともなう。

はいりよ 配慮すること

じりき うご むずか ばあい いどう しえん ほこう ほじょ くるまいすなど
自力で動くことが難しい場合、移動の支援(歩行の補助、車椅子等の
かいじょ
介助)をする。

ほじょぐ かくほ ばあい たんか りよう せお だ
補助具を確保できない場合、リアカーや担架の利用、背負い・抱き
あ ゆうこう
上げも有効。

くるまいすなど ほじょぐ いどう ひと ひなんじょない しょうがいぶつ
車椅子等の補助具で移動する人もいるので、避難所内の障害物を
と のぞ
取り除く。

ひなんじょない つうろ くるまいすなど とお はば かくほ
避難所内の通路は、車椅子等が通れる幅を確保する。

しょうがい ていど くるまいす す ひと ね じょうたい す ひと
障害の程度により、車椅子で過ごす人、寝た状態で過ごす人など
ひつよう かくほ
さまざまであるため、それに必要なスペースを確保する。

にちじょうてき せいかつどうさ きが しょくじ はいせつなど むずか とき ほんにん
日常的な生活動作(着替え、食事、排泄等)が難しい時は、本人に
かくにん うえ かいじょ
確認の上で介助する。

しょうがいべつ ひなんじょ おも はいりょじこう 障害別の避難所での主な配慮事項

ちょうふくしょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりょ ひつよう
(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

なんびょう とくていしっかん かた 【難病・特定疾患のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

なんびょう げんいん わ ちりょうほうほう かくりつ びょうき
難病とは、原因が分からず治療方法が確立されていない病気や、
しゃかいせいかつ おく うえ こんなん しょう まんせいてき びょうき
社会生活を送る上での困難を生じている慢性的な病気の中で、
しっぺい じょうたい さまざま けつえきけい めんえきけい しんけい きん じゅんかんきけい こきゅうき
疾病により状態が様々(血液系、免疫系、神経・筋、循環器系、呼吸器
けい しょうかきけい じん ひ にょうきけいなど
系、消化器系、腎・泌尿器系等)である。

れい さいせいふりょうせいひんけつ びょう びょう
例として、再生不良性貧血、ベーチェット病、パーキンソン病、
ひ だいがたしんきんしょう びょうなど
肥大型心筋症、クローン病等がある。

はいりょ 配慮すること

そうき いりょうきかん そうだん しじ あお
早期に医療機関に相談し、指示を仰ぐ。

けいぞくてき ふくやく とくしゅ やくひん ふくよう ひつよう おお
継続的な服薬や、特殊な薬品の服用が必要なことが多い。

さまざま びょうき びょうたい しょうじょう おう ひつよう
様々な病気があるため、それぞれの病態や症状に応じた必要な
しえん ないよう はあく
支援の内容を把握する。

でんげん せいけつ かくほ つと
電源・清潔なスペースの確保に努める。

しょうがいべつ ひなんじょ おも はいりょじこう 障害別の避難所での主な配慮事項

ちょうふくしょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりょ ひつよう
(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

げんごしょうがい かた 【言語障害のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

はな き むづか じょうたい はっしょう
「話す」「聞く」というコミュニケーションが難しい状態をいい、発症

じき げんいん じょうたい しょうじょう
時期や原因などによって状態や症状はさまざまである。

ことば で しつごしょう まわ こうおんしょうがい ことば えんかつ
言葉が出ない失語症、ろれつが回らない構音障害、言葉が円滑に

はな きつおん ちょうかくしょうがい げんごしょうがい ちてきはったつしょうがい
話せない吃音、聴覚障害からくる言語障害、知的発達障害から

げんごしょうがい
くる言語障害などがある。

はいりょ 配慮すること

しょうがい じょうたい じょうほうしゅとくほうほう みぶ ひつだんなど かくにん ひつよう
障害の状態と情報取得方法(身振り、筆談等)を確認して必要な

しえん はあく
支援を把握する。

ひつよう おう しゅわつうやくしゃ ようせい えんかつ いしそつう
必要に応じて手話通訳者を要請し、円滑に意思疎通がとれるように
する。

障害別の避難所での主な配慮事項

(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

【内部障害のある方】

障害の特徴

内部障害には、心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこう又は直腸・小腸・
肝臓・免疫機能の障害がある。

障害によってペースメーカー装着、人工透析導入、ストーマ装着、
人工呼吸器装着等の医療的援助が必要な場合が多い。

ストーマ...ぼうこう、直腸、小腸の機能に障害がある人が
使用する装具。

配慮すること

早期に医療機関に相談し、対応方法について指示を仰ぐ。

医療器材の消毒や交換等のための清潔なスペースを設ける。(オス
トメイト対応トイレ等)

各種装具、器具用の電源確保に努める。

しょうがいべつ ひなんじょ おも はいりょじこう 障害別の避難所での主な配慮事項

ちょうふくしょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりょ ひつよう
(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

ちてきしょうがい かた 【知的障害のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

かんが りかい かんじょう はな など ちてき のうりよく
考える、理解する、感情をコントロールする、話す等の知的な能力

しょうがい しょう
やコミュニケーションに障害が生じる。

しょうがい ていど じょうじしえん ひつよう ひと げんごのうりよく りかいりよく
障害の程度は常時支援が必要な人から、言語能力や理解力など

いちぶ はったつ お ひと さまざま
一部の発達のみ遅れている人まで様々である。

はいりょ 配慮すること

ほんにん じょうたい ちてきしょうがい ていど かくにん ひと ひつよう しえん
本人の状態（知的障害の程度）を確認し、その人に必要な支援を

はあく
把握する。

かんきょう へんか りかい ほんだん むずか じょうほう みじか ことば
環境の変化を理解・判断することが難しいので、情報は短い言葉や

もじ えなど もち せつめい
文字、絵等を用いてわかりやすく説明する。

きゅうげき かんきょうへんか じゅんのう お つ
急激な環境変化に順応できず、落ち着きがなくなる、パニックで

おおごえ こうどう ひとり め くば
大声をあげるなどの行動をとることがあるため、一人にせず、目を配る。

また、パニック等になった時は、他の避難者とは別の部屋で気持ちを

お つ
落ち着かせる。

しえんしゃ おおさわ しか ぎゃくこうか
支援者は、大騒ぎしたり、叱ったりしない。（逆効果になる。）

ふくやく ひと くすり かくにん かくほ いりょうきかんなど
服薬している人の薬を確認し、確保できるように、医療機関等に

きょうりよく ようせい
協力を要請する。

しょうがいべつ ひなんじょ おも はいりょじこう 障害別の避難所での主な配慮事項

ちょうふくしょうがい ばあい あわ も しょうがい おう はいりょ ひつよう
(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

せいしんしょうがい かた 【精神障害のある方】

しょうがい とくちょう 障害の特徴

せいしんしっかん にちじょうせいかつ しゃかいさんか こんなん じょうたい
精神疾患のため日常生活や社会参加に困難をきたしている状態。

じゅうど ばあい はんだんのうりよく こうどう いちじる ていか
重度の場合は、判断能力や行動のコントロールが著しく低下する
ことがある。

ないいんせい しんいんせい がいいんせい わ とうごうしっちょうしょう そううつびょう
内因性・心因性・外因性に分けられ、統合失調症、躁鬱病、
アルコール・薬物依存症、神経症等がある。

はいりょ 配慮すること

じょうきょう かんきょう へんか よわ せいしんてき どうよう おおごえ はっ げんかく
状況や環境の変化に弱く、精神的に動揺し大声を発したり、幻覚
などを訴える場合がある。

どうよう はげ ばあい きも お つ こえか おこな
動揺が激しい場合は、まず気持ちを落ち着かせるような声掛けを行い、
必要に応じて他の避難者とは別の部屋に誘導する等の対応を行う。

こりつ かぞく ちじん いっしょ せいかつ はいりょ
孤立しないよう、家族や知人と一緒に生活できるように配慮したり、
目を配る。

おお ばあい けいぞくてき ふくやく いりょうてき ひつよう
多くの場合、継続的な服薬と医療的なケアが必要である。

ふくよう くすり かくにん かくほ いりょうきかんなど きょうりよく
服用している薬を確認し、確保できるよう、医療機関等に協力

ようせい
を要請する。

障害別の避難所での主な配慮事項

(重複障害がある場合、併せ持つ障害に応じた配慮も必要となります。)

【発達障害のある方】

障害の特徴

原因不明の脳の機能障害で見た目にわかりにくく、見えにくい障害。

「特定のものにこだわる」「コミュニケーションをとることが困難」

「じっとしてられない」「衝動的な行動をとる」「『読む』『書く』が困難

等、人により特徴のあらわれ方は様々である。感覚が想像以上に

過敏であったり、反対に体調不良やけがに本人が気づかないほど

鈍感であったりするため個別対応が必要な人が多い。

主なものに自閉症、アスペルガー症候群などの広汎性発達障害、

注意欠陥多動性障害、学習障害がある。

配慮すること

家族など本人の状態をよくわかっている人に関わり方を確認する。

変化が苦手なため、スケジュールや場所の変更等は具体的に伝え、

見通しを持たせる。

話し言葉を聞き取ったり、自分の思いを伝えるのが苦手なため、文字や

絵を使い目に見える形にしたり、具体的に話しかけ、個別に対応する。

大勢の人がいる環境が苦手な場合もあるので、居場所に配慮（個別

空間の用意等）する。